KU EXPRESS
関西大学
広報室 広報課
〒564-8680　大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL.06-6368-0075　FAX.06-6368-1266
ホームページ　http://www.kansai-u.ac.jp/

関西大学プレスリリース
研究活動
2008年7月11日／No.15

米国科学振興協会(AAAS)発行「Science」（2008/7/11号）に掲載

「科学者は象牙の塔に閉じこもってはいない」

－科学者は一般的にマスメディアに好意的につきあっている－

社会学部　土田昭司教授ら国際研究グループが調査結果発表

関西大学社会学部の土田昭司教授を含む国際研究チームは、科学者とジャーナリストの関係について調査研究を行い、このたびその結果を発表しました。その内容は、本日発行の「Science」に掲載されています。

それによれば、マスメディアからの取材などの接触に対して、科学研究者の５７％は「おおむね満足した」と回答し、「おおむね失望した」との回答は６％でした。

これまでの多くの事例研究は、科学者とジャーナリストは互いに不信感を持っているなど否定的な面に注目する傾向がありました。しかしながら、日本、ドイツ、アメリカ、イギリス、フランスの疫学と幹細胞研究において活発に研究発表を行っている計1,354名の科学者を対象とした今回の調査結果によれば、科学者はジャーナリストとの対応に満足していることが示されたのです。

１　調査内容とその結果

調査を実施した国際研究チームは、科学者に対して、どれほどの取材や問い合わせを受けているか、そして科学者自身は取材結果をどのように評価しているかを質問しました。その質問の回答選択肢には、例えば、「偏よった信念のジャーナリストから誤って引用された」なども含まれています。

調査対象５カ国を通じて、約７０％の科学者が過去３年間に、少なくとも１回はジャーナリストからの取材や問い合わせを経験しており、その半分以上の科学者はその経験と結果に満足しており、不満であったのとの回答は６％でした。

また、各国ともに、科学者とジャーナリストの関係は「マスコミ・スター」といわれる一部の科学者に一部のマスコミが集中して対応していたのではなく、科学界の広い範囲にわたっていたことが示されました。過去３年間に１回以上取材や問い合わせを受けた科学者が約７０％であり、約３分の１の科学者が過去３年間に５つ以上のメディアから取材や問い合わせを受けていたのです。

2　調査研究によって明らかになった主な知見

（1）科学者にとってジャーナリストからの取材や問い合わせに対応しようと動機づけられる最も重要なことは、それによって多くの人々が科学研究に関心、好意を持ってくれるようになると考えているからであった。科学者の９３%が研究に対して好意的な世論が増えてくれることが最も重要な動機づけであると回答した。

（2）しかしながら、多くの科学者にとって取材・問い合わせに応じた自分の発言がどのように報道されるか分からないという不安をかかえており、９割の科学者は自分の発言が「誤って引用されるリスク」があるので取材・問い合わせに応じたくなくなる気持ちになると回答した。

（3）４６%の科学者はメディアからの取材や問い合わせがあったことが、自分のキャリアに良い影響があったと考えていた。自分のキャリアに悪い影響があったと認識していた科学者は３%であった。

3　まとめ

（1）研究代表者Ｐｅｔｅｒ教授（Forschungszentrum Jülich ドイツ）

科学とメディアの関係についての従来の研究のほとんどは、なぜ科学者とジャーナリストとの関係はこれほどまでに困難なのかという観点に立っていました。しかしながら、私たちの調査結果は科学とメディアの関係研究に発想の転換を迫るものです。

科学界の文化とジャーナリズムの文化との間に相克があることはよく知られており、両者には利害の対立もあるし、科学的なメッセージがマスメディアが取り扱うことによって意味が変わってしまう問題もあります。それにもかかわらず、科学者とジャーナリストの関係がなぜこれほどまでに円滑であるのかを私たちは問題としなければなりません。

（2）関西大学社会学部の土田昭司教授

日本の科学者からの回答は「どちらでもない」など中庸に偏るという日本人特有の特異性は見られたものの、欧米の科学者からの回答とほとんど同じでした。日本においても科学者とメディアの関係には、上記のような潜在的な問題があるにもかかわらず、先端的な研究をしている科学者がなぜマスメディアと友好的な関係にあるのかが問われるでしょう。

その一つの理由として、科学者がもはや象牙の塔に閉じこもろうとはせず、責任のある立場の科学者ほど積極的に公に研究情報を発信しようと努力を始めていることの表れであると解釈することもできます。

■ 国際研究チーム プロフィール

◇ 研究代表者

Hans Peter Peters 教授（ Forschungzentrum Jülich ドイツ）

この研究は、ドイツ連邦政府教育研究省（the German Federal Ministry of Education and Research）からの研究費によって実施されました。

◇ 研究メンバー

Peters,H.P., Brossard, D., Cheveigne, S., Dunwoody, S., Kallfass, M., Miller, S., 土田昭司

◇ 研究テーマ

「Scientists' interactions with Mass Media」

◇ 問い合わせ先

Prof. Dr. Hans Peter Peters:

Tel. +49 [0]2461 61-3562、E-Mail：h.p.peters@z-juelich.de

土田昭司

Tel. 06-6368-0735 、E-Mail：tsuchida@kansai-u.ac.jp

■ 土田昭司 社会学部教授 プロフィール

◇ 略歴

1975 年 山形県立酒田東高等学校卒業
1980 年 東京大学 文学部 社会心理学専修課程卒業
1982 年 東京大学大学院 社会学研究科 社会心理学専門課程 修士課程修了（社会学修士）
1986 年 東京大学大学院 社会学研究科 社会心理学専門課程 博士課程単位取得満期退学

◇ 職歴

1997年 関西大学 社会学部 教授 （社会心理学担当）
2002 年 Brunel 大学 (英国) 客員研究員 （2002 年 4 月 1 日～2003 年 3 月 31 日）
2005 年 日本学術振興会 特定国派遣研究員 (Ljubljana 大学, スロベニア)
（2005 年 8 月 10 日～2005 年 9 月 10 日）
2008年 関西大学 大学院心理学研究科 副研究科長 （2008 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日）

◇ 専門分野

態度やリスク認知についての社会心理学的研究

◇ 研究成果

『若者の感性とリスク：ベネフィットからリスクを考える』(共著 北大路書房 '03)
『対人行動の社会心理学：人と人との間のこころと行動』(編著 北大路書房 '01)

【この件に関するお問合せ先】
関西大学 広報室広報課 ／ 鶴丸、北谷
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL：06-6368-0075 FAX：06-6368-1266
http://www.kansai-u.ac.jp